

## 川柳博物館設立について

### 川柳博物館プロジェクト趣旨

川柳に関する歴史は、初代柄井川柳からおよそ二百五十年が経過し、その間に多くの作品を生み出したばかりでなく、多くの事跡、事物を遺してきている。これらのうち、古川柳と呼ばれる初代川柳時代の資料については、整理・研究され史料としてある程度の収集と体系化が行われている。

しかし、その後に連なる俳風狂句、柳風狂句の時代は、その作品価値を評価しないばかりか、一部、分類解釈のネタになる以外は、あまり顧みられない。

さらに、新川柳は、勃興から百年を経過した今日、新川柳も幅広い活動が行われているにもかかわらず、十分な史料の収集が行われず、第一世代、第二世代から、第一世代を知りうる第三世代が世を去ろうとし、そこに収集・保存された貴重な文献や各種資料が散逸の危機を迎えている。もちろん、意ある近親者の手に残り、大切に保管、研究の対象とされている場合も耳にするが、多くは、不要物として処分され、運のよいものは古書店でふたたび川柳家の手に戻るが、最近の系列古書店システムでは、再版の対象外になっていることも多いようである。

これらの散逸を少しでもとどめ、保存、修復、整理することにより、将来の川柳研究の資源として利用されるようにすることが、このプロジェクトの趣旨である。

書写の文化から活字文化へ、そしてデジタル文化へという地球規模での社会変化の新しい時代に入って、マイナーな文芸である川柳資料への興味は薄れつつある。このことを深く自覚し、永続的な川柳文化の継承と発展および教育への貢献を目的として、川柳博物館を創設する。

## 1. 理念と目的

川柳に関する歴史は、初代柄井川柳からおよそ250年が経過し、その間に多くの作品を生み出したばかりでなく、多くの事跡、事物を遺してきている。

これらのうち、古川柳期のものに関しては、ある程度の研究と収集、整理が行われ、その存在価値も認められているが、その後の狂句期、特に五世川柳以降の柳風会系の事物、さらには、ちょうど100年を経過した新川柳勃興以降の事物についての研究と収集は、ごく一部の研究者によって行われている以外、省みられることが少ない対象になっている。

新川柳の世代も、第一世代はすべて過去のものとなり、今は第四世代ないし第五世代に移行しようとしている。わずかに残る第一世代を知り得る第三世代も高齢化が進み、そこに所有される関連事物も周辺の無理解により、後世に伝わることなく失われていくことも多いと考えられる。

このことを深く自覚し、永続的な川柳文化の継承と発展および教育への貢献を目的として、川柳博物館を創設する。

## 2. 川柳博物館の事業

川柳博物館は、会員、会員各社との連携、関係各方面の協力を得て、以下の事業を行う。

- (1) 川柳全般に関する資料を収集、整理・保管する。  
また、歴史をたどるとともに、各吟社の諸活動の現況を明らかにすることによって、川柳の社会的機能と役割、その将来を考える展示、出版、ホームページ制作を行い、川柳関係者はじめ広く一般社会への教育に資する。
- (2) 川柳に関する多様な研究・研修、内外の交流を行うとともに、資料、設備を広く内外の川柳関係者、研究者、一般の利用に供する。
- (3) 学校教育ならびに社会教育を含めた生涯教育への川柳の活用を研究実践する。
- (4) 川柳研究、川柳教育の実践者を支援し助成する。
- (5) その他目的を果たすうえで必要と考えられる事業。

### 3. 川柳博物館の機能

- (1) 資料の収集：博物館の設立目的に沿って、必要な資料、機材を収集しデータベース化するとともに、複製、再現など、理解を助け興味を抱かせるための材料を提供する。
- (2) 整理・保管：収集した資料類の保存・管理。  
とりわけ作家による川柳活動の証しでもある染筆作品、句集、川柳誌、その他書籍等放置すると失われかねない事物の保存は、川柳博物館をつくる大きな動機のひとつでもある。  
また、川柳ライブラリーを併設し、全国の川柳紙誌を収集し、原本あるいはマイクロフィルム、デジタル媒体で保存するほか、関係諸機関との協力関係を樹立し、会員各吟社とのネットワーク化を図る。
- (3) 調査・研究：博物館の運営に伴う調査研究と、博物館の目的から発生する調査、研究。この面でも情報発信基地としての充実を図る。
- (4) 展示：内外の川柳に関する歴史的資料（理解を助けるための仕掛けを含む）の展示を柱として、過去、現在、未来の川柳ならびに川柳文化を全体的にも部分的にも理解できるようにする。楽しく興味の持てるよう、“参加型”博物館を指向する。

### 4. 川柳博物館の性格と役割

- (1) 川柳博物館の性格  
川柳博物館は、最終的に公益法人としての私立法人立博物館、特定専門博物館を目指す。国、地方自治体立でない専門博物館として、他に例を見ない公共性の高い博物館となるよう性格付ける。
- (2) 川柳博物館の役割  
川柳は、俳句などと同様、国民的文芸としての地位を確立し、ジャーナリズムにおいて、国民意見を代弁するような時事も多く世相反映の役割、機能を果たしており、社会を構成するすべての人が、この役割、機能およびそれらの発展の歴史に
- (5) 教育活動：内外の関係者に川柳研究、研修の便宜を与える。NIEなど川柳に関する教育、啓発をはかる。川柳編集、制作の実習設備。これらの機能を十分に発揮させるため、NIE全国センターを併設するとともに、川柳博物館内に川柳教室を開設する。
- (6) 研究助成：研究所を併設し、川柳に関する調査研究、教育実践への助成を行う。

関する知識を持ち、その意味について考えることが極めて重要である。

また、川柳はその媒体特性から、卓越した記録性と膨大な情報量を有する。明治以降の日本の近現代史をたどるうえで川柳は不可欠であり、歴史資料としての価値は極めて大きい。

川柳博物館は、この2つの目的を満たすことのできる唯一の社会教育施設・機関である。博物館活動の対象は単に川柳関係者のみならず、地域社会、教育機関を含めたすべての人に及ぶと考えられる。

## 5. 博物館設立・運営の主体

最後に目指すのは公益法人であるが、当面は情報を集約、整理するWeb川柳博物館と朱雀洞文庫はじめ、川柳文化材を所蔵する個別の所有者の有機的連絡団体を設立・運営主体とする。